

## 図画工作科

### 「自分の思いを主体的に表現しようとする子どもを育てる」～個性が光る創造活動～

大阪市立大宮小学校 村尾奈津子 吉村綾香 藤井康雄 中島琴音 金城菜摘

## 1、主題設定の理由

本校では、「考える子、優しい子、元気な子」という教育目標のもと、「子どもたちが生き生きと学ぶ、楽しい学校づくりを推進する」を学校経営の重点として教育活動に取り組んでいる。

昨年度までの2年間、研究教科を図画工作科と定め、1年目には楽しく意欲的に創造活動ができることを目指し、基礎基本や技法の習得を図り、つくり出す喜びを味わうことができる取り組みをしてきた。2年目には一人一人が自信を持って創造活動に取り組み、自分のよさを広げることができるような実践を行ってきた。児童がわくわくしながら活動できる題材の開発を進めてきたことで、自分の思いを表現することの喜びを味わうことができるようになった。また、友達の作品のよさにも目を向けることができるようになり、学び合いが進んでいった。

今年度も、図画工作科を研究教科にとりあげ、「自分の思いを主体的に表現しようとする子どもを育てる～個性が光る創造活動～」を研究主題とし研究を進めることとした。自分の思いを表現するためには、表したいことに合わせて材料や用具を選び、表現の仕方を工夫するなど、思いを具体的にしていける能力が重要である。これは、造形遊び、絵や立体・工作をバランスよく指導する中で育成されていく。また、材料、用具、場所などとの関係を考えて進めていくことも必要である。

こうすることで、これまでに培った他の能力とも関連させ、創造的な技能を育てることで、つくり出す喜びを味わいながら主体的に表現しようとする子どもの育成をはかっていきたい。

以上のような考えから以下の3点を研究の視点としてあげた。

- ①児童が思いを主体的に表現し、楽しく取り組める題材開発や指導方法の在り方
- ②児童が主体的に取り組めるための指導や支援の在り方
- ③互いの作品のよさや面白さを認め合い、学び合う場の設定

これらの活動をすることによって学習指導要領、図画工作科の目標に掲げられている、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養うことができると考える。これは、生涯学習につながる「生きる力」を育む図画工作科教育の実践に繋がると考えた。

## 2、研究の成果

### (1) 思いを主体的に表現し、楽しく取り組める題材開発や指導方法の在り方

学習過程の導入では、自然に楽しく活動に取り組めるようにストーリー性を持たせたり発想が広がるような参考作品の提示の仕方を工夫したりすることで、つくりたいという意欲を高めることができた。また、限られた表現方法にとどまらず、自分のイメージに合った技法や道具を選べるような題材開発に努めてきた。パス・絵の具・紙工作・粘

土などの技法や道具の使い方などを提示し、これまでの経験が生かされるように必要な物を豊富に準備し、自由に試して取り入れることができるような場を設定することで表現を豊かにすることができた。

## (2) 主体的に取り組めるための指導や支援の在り方

児童のつぶやきを大切にし、一人一人の思いを共感的に受け止めるように心がけてきた。自分の思いが実現できるように材料コーナーを設けたり、正しい道具の扱い方を提示したりしてきた。また、作品づくりに意欲的に取り組めるように設計図やイメージ画などで事前にイメージを持たせることで、迷うことなく自信を持って活動に入らせることができた。

## (3) 互いの作品のよさや面白さを認め合い、学び合う場の設定

鑑賞の時間を大切にとらえ、いろいろな場面で取り入れた。その際には、鑑賞するポイントを提示して、疑問点があれば友達に質問するようにした。そうすることで、見ただけでは分からない表現のよさを知り、友達の作品で見つけた工夫を自分の作品のヒントにすることで、イメージを広げることができた。また、作品のよさや面白さを発表したりカードに書いたりして共有することで、互いに認め合うことができ、達成感を味わうことができた。

展示方法では、教室で暗幕を使用して展示をしたり多目的室を生き物館にしたりとその作品のよさが表れるよう工夫した。また、コンクールを開いたり設計士になったりする設定にしたことで、友達の作品を鑑賞することを楽しみにするようになった。

展示の仕方や設定により、いろいろな角度から見たりいろいろなポイントを意識したりしながら鑑賞することができ、児童の見方が広がった。

## 3、今後の課題

- 今後も、児童が自分の思いを主体的に表現できるような題材や指導方法を工夫していく。
- 系統立てた指導を進めていけるよう年間指導計画を見直してきた。今後は、それをもとにさらに題材開発を進め、材料や道具を生かす経験をより豊かにしていく必要がある。
- 児童理解を一層深め、一人一人の思いによりそった支援や、イメージを広げることが難しい児童への支援の仕方を今後も研究していく。
- 今年度研究した表現活動について、引き続き、研究・研修を進め、材料・用具・技法の基礎基本を再確認し、指導者の指導力を高める。さらに、今後も表現活動を支える効果的な学習指導材の開発や支援の在り方についての研修を進めていく。